

公立大学法人大阪府立大学
平成28事業年度の業務実績に関する評価結果
〈たたき台〉

平成29年8月
大阪府公立大学法人大阪府立大学評価委員会

目 次

1 公立大学法人大阪府立大学の年度評価の考え方	1 ページ
2 全体評価	2 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
<全体評価にあたって考慮した事項>	
① 公立大学法人大阪府立大学の基本的な目標	
② 平成28年度における重点的な取組み	
③ 特筆すべき取組み	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3 大項目評価	
3-1 「教育研究等の質の向上」に関する大項目評価	4 ページ
(1) 進捗状況の確認結果	
(2) 地域貢献及び国際化に関する評価結果と判断理由	
(3) 進捗状況の確認や評価にあたっての意見、指摘等	
3-2 「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目評価	6 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3-3 「財務内容の改善」に関する大項目評価	8 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3-4 「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」に関する大項目評価	10 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3-5 「その他業務運営に関する重要目標」に関する大項目評価	11 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	

1 公立大学法人大阪府立大学の年度評価の考え方

- 本評価委員会においては、「公立大学法人大阪府立大学にかかる年度評価の考え方について」（平成25年7月30日決定平成26年9月1日改正）に基づき、次のとおり、平成28事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

<評価の基本方針>

評価にあたっては、国立大学法人評価委員会における評価方法を踏まえつつ、特に、法人化を契機とする大学改革の実現、教育研究の特性への配慮、公立大学としての地域における役割と府民への説明責任の3点を考慮した。

<評価の方法>

評価は「項目別評価」と「全体評価」により行う。

「項目別評価」では、法人による自己評価・自己点検の結果をもとに、業務実績に関する事実確認、法人からのヒアリング等を通じて、年度計画の進捗状況を確認するとともに、法人の自己評価・自己点検の妥当性の検証と評価を行う。また、「全体評価」では、「項目別評価」の結果等を踏まえつつ、中期計画等の進捗状況全体について総合的な評価を行う。

（項目別評価の具体的方法）

項目別評価は、①法人による小項目ごとの自己評価、②評価委員会による小項目評価、③評価委員会による大項目評価の手順で行う。

①法人小項目自己評価

実績報告書の小項目ごとにⅠ～Ⅴの5段階で自己評価を行う。

②委員会小項目評価

法人の自己評価、目標設定の妥当性などを総合的に検証し、小項目ごとにⅠ～Ⅴの5段階による評価を行う。

③委員会大項目評価

評価委員会における小項目評価の結果、特記事項の記載内容等を考慮し、大項目ごとの進捗状況について、S・A～Dの5段階による評価を行う。

（全体評価の具体的方法）

評価委員会において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の進捗状況について評価を行う。

<「教育研究等の質の向上」に関する項目の取り扱い>

「項目別評価」のうち、「教育研究等の質の向上」（「地域貢献等に関する項目」及び「国際化に関する項目」を除く）に関する項目については、教育研究の特性への配慮から、その専門的な評価については「大学認証評価機関による評価」を踏まえることとした。したがって、本評価委員会としては専門的な観点からの評価は行わず、進捗状況の確認にとどめた（地方独立行政法人法第79条参照）。

- ただし、第2期中期目標期間が開始する平成23事業年度より、「教育研究等の質の向上」の項目のうち「地域貢献等に関する項目」及び「国際化に関する項目」については、進捗状況の確認にとどまらず、評価を行うこととした。

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

- 平成28事業年度の業務実績に関する評価については、4ページ以降に示すように、「教育研究等の質の向上（地域貢献及び国際化の項目のみ）」「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」及び「その他業務運営に関する重要目標」の5つの項目について、

【案1】すべて、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

【案2】4つがA評価（「計画どおり」進捗している）、1つがB評価（おおむね計画通り）が妥当であると判断した。

【案3】3つがA評価（「計画どおり」進捗している）、2つがB評価（おおむね計画通り）が妥当であると判断した。

- また、進捗状況の確認にとどめることとしている地域貢献及び国際化の項目以外の「教育研究等の質の向上」の項目については、大学認証評価機関において「評価基準を満たしている」との評価を得た。また、選択評価事項A及びBにおいては「目的の達成状況が極めて良好である」との評価を得るなど「計画どおり」進捗していることを確認した。

○ 【案2・3】 国家試験合格率について、目標値を下回るものが複数認められるなど、他各計画を順調に実施しているとは認めにくい部分もあることから、年度計画を十分に実施できていないと認められる。

○ 【案2・3】 外部資金の獲得については、平成27年度を下回る結果となっており、年度計画を十分に実施できていないと認められる。

- 大学認証評価機関において「評価基準を満たしている」との評価を受け、選択評価事項A及びBにおいては「目的の達成状況が極めて良好である」との評価をうけるなど非常に評価できる。

- 以上の大項目評価の結果に加え、公立大学法人大阪府立大学の基本的な目標、平成28年度の重点的な取り組み等を総合的に評価し、平成28事業年度の業務実績については、

【案1・2】「全体として年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」とした。

【案3】「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」とした。

★ なお、法人の取組みを俯瞰して、本評価委員会として、次の意見を付記する。

大学認証評価機関において「評価基準を満たしている」との評価を受け、選択評価事項A及びBにおいては「目的の達成状況が極めて良好である」との評価を受けるなど非常に評価できる。今後も同様の評価を得るための継続的な努力を望む。

また、今後も女性が働くうえでの制度の充実・支援については、女性研究者の積極的な登用、制度面の整備など継続的に取組むよう引き続き努められたい。また、取組みにあたっては、法人自らが、「府立大学をどうしたいのか」という明確な考え方を持って、女性研究者の登用や環境整備を行うことが重要である。

【案2・3】 計画において数値目標が達成できていないものや、前年度の数値を下回るなどの結果が認められた。

今後は数値目標の達成に向け更なる努力・改善を期待する。

教育研究等の質の向上 (4ページ)	「計画どおり」進捗していることを確認				
	【案1】 ※なお、地域貢献及び国際化の項目については、A評価に該当する 【案2・3】 ※なお、地域貢献及び国際化の項目については、C評価に該当する				
業務運営の改善及び効率化 (6ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
財務内容の改善 (8ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	【案2・3】 C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
自己点検・評価及び情報提供 (9ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
その他業務運営に関する重要目標 (10ページ)	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり

法人の基本的な目標、平成28年度の重点的な取り組み等を総合的に考慮し・・・

<全体評価の評価結果>（小項目全体で割合を出したとき）

案1【A5つ100%】「全体として年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」

案2【A4つ93.75%】「おおむね年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」

案3【A3つ87.5%】「年度計画及び中期計画についてやや遅れている」

<全体評価にあたって考慮した事項>

① 公立大学法人大阪府立大学の基本的な目標

公立大学法人大阪府立大学は、従来から広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教育研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、応用力や実践力に富む有為な人材の育成を行うとともに、その研究成果の社会への還元を図り、もって地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的としている。この目的に加え、新たな公立大学法人大阪府立大学としての改革を着実に推進するための取り組みを行う。

② 平成28年度における重点的な取組み

- EDGEなどの人材育成プログラムの充実
- 公開講座、出前授業の充実
- 自治体等との連携協定の推進
- 学生の留学支援、海外からの留学生の受け入れ強化
- 女性研究者、若手研究者、外国人研究者などの多様な優れた人材の確保と育成
- 経常経費の抑制

③ 特筆すべき取組み

項目別評価の結果をもとに、特筆すべき取組みについて、次のとおり確認した。

- 大学認証評価機関において「評価基準を満たしている」との評価を受け、選択評価事項A（研究活動）及びB（地域貢献）においては「目的の達成状況が極めて良好である」との評価を受けたことは非常に評価できる。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 女性が働くうえでの制度の充実・支援については、継続的に取り組まれない。また、取組みにあたっては、法人自らが、府立大学をどうしたいのかという明確な考え方をもち、女性研究者の登用や環境整備を行うことが重要である。
- 【案2・3】 国家試験合格率について、目標値を下回るものが複数認められた。今後は、目標達成に向けた取組みを進めることを望む。
- 【案2・3】 外部資金の獲得額について、平成27年度を下回る結果となっており改善を求め

3-1 「教育研究等の質の向上」に関する大項目評価

(1) 進捗状況の確認結果

○ 「教育研究等の質の向上」の地域貢献及び国際化以外に関する11の小項目について、進捗状況をチェックしたところ、教育、研究いずれの分野においても、全体的に計画どおり進捗しており、教育研究活動が着実に行われるとともに、その質的向上が図られていることを確認した。なお、大学認証評価機関において「評価基準を満たしている」との評価を得、また、選択評価事項A及びBにおいては「目的の達成状況が極めて良好である」との評価を得たことを確認した。

(2) 地域貢献及び国際化に関する評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果では、

【案1】4項目すべてが小項目評価のⅢに該当するため、A評価（「計画どおり」に進捗している）に該当する。

【案2】4項目のうち3項目が小項目評価のⅢに、1項目がⅡに該当するため、C評価（やや遅れているor年度計画を十分に実施できていない）に該当する。

- ・ 教育内容等の改善のため引き続き卒業後5年目の卒業生にアンケートを実施するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- ・ 中小企業向けの補助金獲得支援や共同・受託研究件数の確保など、年度計画に基づき取組みを実施。
- ・ 21世紀科学研究機構を核として分野横断型研究を推進するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- ・ 府内市町村との連携事業を推進するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- ・ COC事業や人材育成事業を推進するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- ・ 公開講座数が年度計画を上回り取組みを実施。
- ・ I-siteを活用したセミナーの実施など、年度計画に基づき取組みを実施。
- ・ 貴重図書展示の実施等、年度計画に基づき取組みを実施。

・ 【案1】全体として計画どおりの進捗が認められる。

・ 【案2】しかし、国家試験合格率について、目標値である95%を下回る88.9%と未達成もあり、他各計画を順調に実施しているとは認めにくい部分もあることから、年度計画を十分に実施できていないと判断。

○ 【案1】以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

○ 【案2】以上により、大項目評価としては、C評価（やや遅れている）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	【案1】A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	【案2・3】C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	----------------	--------------------	--------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

【案1】4項目すべてが小項目評価のⅢに該当するため、A評価（「計画どおり」）に進捗しているに該当する。

【案2】4項目のうち3項目が小項目評価のⅢに、1項目がⅡに該当するため、C評価（やや遅れている）に該当する。

	V	IV	Ⅲ	Ⅱ	I
	計画を大幅に上回って実施している	計画を上回って実施している	計画を順調に実施している	計画を十分に実施できていない	計画を大幅に下回っている
地域貢献ナンバーワン大学 (35)～(43)	—	—	★	案2★	—
諸機関との連携の強化 (44)～(53)	—	—	★	—	—
国際化 (54)～(56)	—	—	★	—	—
【高専】地域貢献等 (77)～(80)	—	—	★	—	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

(35)～(43) 地域貢献ナンバーワン大学

○ 【案1】国家試験合格率については、高い目標値の達成に向け取組むとともに、EDGEなどの人材育成プログラムの充実に取り組むなど、年度計画に基づき取組みを実施。

【案2】国家試験合格率について、目標値を下回るものが複数認められた。

- 教育内容等の改善のため引き続き卒業後5年目の卒業生にアンケートを実施するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 中小企業向けの補助金獲得支援や共同・受託研究件数の確保など、年度計画に基づき取組みを実施。
- 21世紀科学研究機構を核として分野横断型研究を推進するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 府内市町村との連携事業を推進するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- COC事業や人材育成事業を推進するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 公開講座数が年度計画を上回り取組みを実施。
- I-siteを活用したセミナーの実施など、年度計画に基づき取組みを実施。
- 貴重図書の展示の実施等、年度計画に基づき取組みを実施。

(44)～(53) 諸機関との連携の強化

- 自治体等と連携した研修等を実施するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 項目45については、中期計画達成済。
- 府内教育委員会と連携し高大連携出張講義、初等中等教育の質向上のため理科教育を実施するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 項目47については、中期計画達成済。
- 府内医療機関等の就職ガイダンスなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 実習病院との連携を図るなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 客員研究員の受け入れなど、年度計画に基づき取組みを実施。

- COC事業の実施や大阪市立大との連携事業等を多数実施するなど年度計画に基づき取り組みを実施。
- ものづくり中小企業後継者育成プログラムを和泉市等と協力して実施するなど、年度計画に基づき取り組みを実施。
- 企業と協力体制でホウ素薬剤の開発に特化した研究拠点「BNCT研究センター」で研究開発を進めるなど、年度計画に基づき取り組みを実施。

(54)～(56) 国際化

- 国際交流会館において、異文化交流行事を開催、「大阪府立大学グローバル化戦略」に基づくアクションプランを実施など、年度計画に基づき取り組みを実施。
- 学生の留学支援、海外学会発表を促進するなど、年度計画に基づき取り組みを実施。
- 泰日工業大学留学生支援事業の推進と継続拡充、留学生受入数の確保など、年度計画に基づき取り組みを実施。

(77)～(80)【高専】地域貢献等

- 引き続きSIPプロジェクトに参画するなど、年度計画に基づき取り組みを実施。
- 産学官マッチングフェアに参加するなど、年度計画に基づき取り組みを実施。
- URAセンターと協力し講師を派遣するなど、年度計画に基づき取り組みを実施。
- 児童・生徒対象の公開講座、出前授業について年度計画を上回り実施。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 年度計画をほぼ順調に実施していると認めるが、国家試験合格率について、目標値を下回るものが認められた。
今後、目標達成に向けた取り組みを進めることを望む。
- 学生の留学支援策の充実、海外からの留学生受け入れ拡充の取り組みは評価できる、今後とも引き続き単位互換等による留学支援等に努められたい。

3-2 「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。
 - ・すべての項目において、年度計画を順調に実施していると認める。
- 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

4項目の全てが小項目評価のⅢに該当するため、A評価（「計画どおり」に進捗している）に該当する。

	V	IV	Ⅲ	Ⅱ	I
	計画を大幅に 上回って 実施している	計画を 上回って実施 している	計画を順調に 実施している	計画を十分に 実施できて いない	計画を大幅に 下回っている
法人組織の改革 (81)～(82)	—	—	★	—	—
教職員組織の運営の改善 (83)～(87)	—	—	★	—	—
教員組織の改革(88)	—	—	★	—	—
事務組織の改革(89)(90)	—	—	★	—	—
コンプライアンス・リスク マネジメントの強化(91)	—	—	★	—	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

(81)～(82) 法人組織の改革

- 理事長・学長のトップマネジメントの発揮、部局長との意見交換会の実施など、年度計画に基づき取組みを実施。
- 教員活動情報データベースシステムを安定的に運営するなど年度計画に基づき取組みを実施。

(83)～(87) 教職員組織の運営の改善

- テンユア・トラック制度の継続実施など、年度計画に基づき取組みを実施。
- 府大の教員業績評価制度の評価結果を踏まえた面談を実施するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 高専の教員業績調書に基づき校長面談を実施、業績評価方法を見直すなど年度計画に基づき取組みを実施。
- 福利厚生事業等の周知活動を展開するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 次期（第3期）情報システムの調達を開始するなど、年度計画に基づき取組みを実施。

(88) 教員組織の改革

- 年度計画に基づき各研究科専攻に専攻長の設置を決定。

(89) (90) 事務組織の改革

- 法人職員化の推進など、年度計画に基づき取組みを実施。
- 法人統合の動向を踏まえた制度等検討など、年度計画に基づき取組みを実施。

(91) コンプライアンス・リスクマネジメントの強化

- 国の不正防止ガイドラインに対応し、内部チェック機能を強化するなど、年度計画に基づき取組みを実施。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 女性が働くうえでの制度の充実・支援については、継続的に取り組まれない。
また、取組みにあたっては、法人自らが、「府立大学をどうしたいのか」という明確な考え方をもち、女性研究者の登用や環境整備を行うことが重要である。

3-3 「財務内容の改善」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 【案1】小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」）となる。
【案2】小項目評価の集計結果では、C評価（やや遅れている）となる。
- ・【案1】外部資金の獲得については、平成27年度を下回る結果となっているが、教員数配置が、年度計画を達成するなど経営努力を進めていることから、年度計画を順調に実施していると認め、総合的に評価した結果、「Ⅲ」評価が妥当と判断した。
- ・【案2】外部資金の獲得については、平成27年度を下回る結果となっており、年度計画を順調に実施したとは認めにくい。よって、総合的に評価した結果、「Ⅱ」評価が妥当と判断した。
- これらのことから、大項目評価としては、【案1】A評価（「計画どおり」）【案2】C評価（やや遅れている）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	【案1】A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	【案2・3】C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	----------------	--------------------	--------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

4項目の全てが小項目評価のⅢに該当するため、A評価（「計画どおり」に進捗している）に該当する。

	V	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	I
	計画を大幅に 上回って 実施している	計画を 上回って実施 している	計画を順調に 実施している	計画を十分に 実施できて いない	計画を大幅に 下回っている
経常経費の抑制 (92)～(94)	—	—	★	—	—
自主財源捻出(95)	—	—	★	案2★	—
資産の運用管理の改善 (96)～(97)	—	—	★	—	—
学生納付金(98)	—	—	★	—	—
運営費交付金(99)	—	—	★	—	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

(92)～(94) 経常経費の抑制

- 財務諸表のセグメント分類表示など、年度計画に基づき取組みを実施。
- 府大教員数配置が、年度計画を達成。

(95) 自主財源捻出

- 外部資金等の獲得について、年度計画に基づき取り組んでいる。

（外部資金の獲得金額が伸び悩んでいるが、教員数の削減が主要因と考えられる）

(96) (97) 資産の運用管理の改善

- 中期計画達成済
- 施設・設備等の有効利用のためのスペースチャージ制の検討を進めるなど、年度計画に基づき取組みを実施。

(98) 学生納付金

- 授業料の水準を維持し、年度計画に基づき取組みを実施。

(99) 運営費交付金

- 運営費交付金の効率的な執行に努め、事業評価を行うなど、年度計画に基づき取組みを実施。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 【案2】外部資金の獲得額について、平成27年度を下回る結果となっており、外部資金の積極的な獲得に向けた改善を望む。
- 外部資金の獲得に関しては、産業振興に直接役立つような研究と基礎的な研究、教育と研究など、バランスをどのようにとりながら注力するかビジョンを持つ必要がある。

3-4 「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」進捗している）である。
 - ・ 大学認証評価機関の評価において「極めて良好」との評価を受けた。
- 全体として計画どおりの進捗が認められる。
- 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

小項目は1項目のみであり、評価はⅢに該当するため、A評価（「計画どおり」に進捗している）に該当する。

	V	IV	Ⅲ	Ⅱ	I
	計画を大幅に 上回って 実施している	計画を 上回って実施 している	計画を順調に 実施している	計画を十分に 実施できて いない	計画を大幅に 下回っている
自己点検・評価及び情報提供 (100)～(105)	—	—	★	—	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

- 自己点検・評価の一体的な実施により自己評価書を作成し認証評価を受審、年度計画に基づき取組みを実施。
- データ集の学外公開を進めるなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 高専の自己点検・評価を実施、H29年度の認証評価受審の準備を行うなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 各種SNSによる情報発信を進めるなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 学術情報リポジトリのコンテンツを充実するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 大学ランキングの評価基準等の把握に努めるなど、年度計画に基づき取組みを実施。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 大学認証評価機関において「評価基準を満たしている」との評価を得た。また、選択評価事項A及びBにおいては「目的の達成状況が極めて良好である」との評価を得るなど非常に評価できる。今後も同様の評価を得るための継続的な努力を望む。

3-5 「その他業務運営に関する重要目標」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」進捗している）である。
- 全体として計画どおりの進捗が認められる。
- 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

小項目は1項目のみであり、評価はⅢに該当するため、A評価（「計画どおり」に進捗している）に該当する。

	V	IV	Ⅲ	Ⅱ	I
	計画を大幅に 上回って 実施している	計画を 上回って実施 している	計画を順調に 実施している	計画を十分に 実施できて いない	計画を大幅に 下回っている
その他業務運営に関する 重要目標 (106)～(111)	—	—	★	—	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

- キャンパスプランに基づき改修整備を推進し、年度計画に基づき取組みを実施。
- エコキャンパスの取組みを推進するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 年度計画に基づき、高専において光熱水費の削減に取組んだが、ガス使用量が前年度比増加。
- 危機管理研修、危機管理本部班別訓練を実施するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 安全管理、労働衛生について講演会を実施するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 人権ハラスメント講習会を開催するなど、年度計画に基づき取組みを実施。
- 新大学設計4者TF、法人統合実務者検討会議にて統合に向けた検討、準備を実施

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。